

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200784		
法人名	社会福祉法人 常緑会		
事業所名	グループホーム ふるさと	ユニット名	西館
所在地	宮崎県都城市豊満町2642番地1		
自己評価作成日	平成24年7月1日	評価結果市町村受理日	平成24年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570200784&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホールは広く、天窓から自然の光や風が入り居心地が良く、また、和室や仏壇もあるので、家庭的な雰囲気の中で過ごせている。そして、居室や食堂から中庭が見えるので、花や木(梅・びわ・桜など)で季節を感じてもらえるように、園庭で桜を見ながら手作り弁当を食べたり、庭で収穫した梅と一緒に漬けたり、びわをおやつにしている。医療面では、協力機関の病院があり、定期的な応診・受診もでき、健康管理をしている。食事面では、母体施設の栄養士の献立をホームでスタッフが作るの、においを楽しんでもらったり、味見をして頂いたりして関わってもらっている。また、スタッフの家で採れたフキやらっきよ等、皮むきなどを手伝ってもらい、献立に添えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、笑顔で利用者や家族と接することに心がけており、利用者もその影響を受けて笑顔が見られたり、食事時に会話がはずむことがある。一人の利用者に生じたことや起きていることも全職員で話し合い、原因や背景を検討し、次の支援につなげている。職員は、「ケース記録」に利用者の状態や言動を記録しているの、長期的に状況を見直して、なぜそうなっているのか、多面的に考えて対応している。結果として、一人の職員では思いつかなかったようなことが分かり、職員と利用者、双方により結果を生じている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り、ホームの見やすいところに掲示している。毎朝、ミーティングで唱和している。		介護の理念に加えて、地域密着型サービスの理念を三つ掲げている。内容は、「地域の交流や家族のふれあいの機会を持つ」といった具体的かつ明りょうなものとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		公民館に加入している。西豊満地区にふるさと通信を回覧してもらっている。(年2回)	ホームを含む、同法人主催の年1回の花火大会には、地域住民も事前の話し合いに加わっている。食材は、地域の店を利用している。地区の文化祭には、作品を出品して見に出かけている。ショッピングモールに出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている		地域に出かける機会を作れなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		議事録を作成し、皆で共有している。議事録は、都城市・三股町に加え、社協にも送付している。	委員からの意見や実際の提案が出され、ホームの生活に良い影響が出ている。議事録は、職員も見られるようになっており、職員やホームにとって必要なことは、ミーティングで伝え、生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる		在宅部会や市主催の説明会に出席し、周知した上で、サービスの向上に努めている。医療費減額等の申請や補聴器購入にあたり、助言をもらった。	介護保険制度の説明会出席や尋ねたいことなどは、直接、市の担当課に出かけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		身体拘束はしないケアに取り組んでいるが、安全面から玄関は施錠している。	昼食の時間は、玄関の解錠をしているが、他の時間は施錠している。	身体拘束をしないケアに、「施錠をしない」が含まれることの理解を、管理者と職員は共有し、解錠の時間を増やしながら、見守り対応の支援に向けていくことを希望したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		新聞や勉強会で学んで、虐待等が無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性が生じた場合は、活用できる体制がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議に出席されている家族の意見や要望は聞ける。		家族のつどいを設けたり、家族にアンケートを配布して、積極的に家族の意見や要望を求めている。また、来訪時の家族からの要望へも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやサービス検討会での意見を主任者会で上げている。		食事をするテーブルの位置や業務内容の変更などについて、職員は管理者に意見を述べるなど、双方の意思の疎通は図られており、話し合いの時間を設けて、意見を活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や勤務状況などを把握して、職員が充実して働けるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修(園外)を受ける機会が設けてある。出席した職員が、研修した内容について報告している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都城・三股地区のグループホームの定例会があり、情報交換や勉強会をしている。県南地区では、8月・11月・2月研修会の予定がある。茶話会もある。			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面接で、話しやすい雰囲気を作り、安心してもらえるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し、安心してもらえるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集や本人・家族との面接時に、必要とされているであろう支援を見極めるよう努力している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳をもって話すよう心掛けている。経験された事を話してもらえるような、場面作りをしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時には、家族にも付き添ってもらったり、電話や面会時に近況報告をしている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と毎年花見に行かれていた方が車椅子になられた為、園車で家族いつもの場所に行ってもらった。手紙を書かれる人がいるので、ポストへ投函している。		入居前に出かけていた花の名所に行き、知り合いと再開したり、神社への初詣でに職員と毎年出掛けたりしている。また、家族と寺や墓参りにも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように心掛けている。入居者同士が関わっている時には、気もちよく過ごせるように支援している。入居者同士が食事やおやつ時、居室へ呼びに行ったり、食器の片付けを手伝っている時がある。			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、関わりを持っている利用者や家族はいない。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	回想法を活用したり、方言で話したりして、本人の希望や意向の把握に努めてはいるが、何も無いと言われる方もおられる。		「からいも風土記」の読み聞かせや昔懐かしい習慣の絵を見ながら話し合ったりして、記憶の呼び起こしや意向を聞こうとしている。話すことの少ない利用者には、提案や選択をしてもらって、反応で支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を把握して、プランを作成している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った生活パターンで、過ごしてもらっている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を聴いたり、スタッフの気づきや入居者の状態変化などを考慮して計画し、見直し、評価している。		定期的な計画の見直しは、利用者担当の職員、家族、利用者の意見を聞き、行っている。体調面の変化のある時は、家族と相談し、随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があれば、家族や看護師と相談し、医師に上申して見直している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に合わせ、その時々生まれるニーズを大切にしながら、柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はあまりない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の意向を大切にしている。2人の方が、以前からのかかりつけ医であり、その内1人は、訪問看護を受けている。他の方は、協力医療機関が主なかかりつけ医となっている。		掛かりつけ医への受診には、ホーム独自のカルテに利用者の情報を記し、職員がそれを見ながら医師に説明をしている。同法人の病院からの往診には、同じカルテから、前日、看護師に説明をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に報告し、健康管理や医療活用の支援をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師や家族・病院関係者と情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期などは、段階に応じて家族と充分話し合い、取り組んでいる。		重度化した場合は、同法人の施設に移ることができることを説明したり、急変に応じて家族と話し合い、ホームで看取ったこともある。しかし、状況に臨機応変に対応した結果であり、一貫した方針は持っていない。	ホームとしての方針を持ち、早期からの話し合いで、家族に十分説明と選択肢を提示することができるように期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練はしているが、定期的ではない。AEDの設置（東館）、マニュアルは備えてある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体施設と連携をとり、地域の協力が得られるようにしている。月1回は、避難訓練をするようにしている。食器棚や神棚は固定し、防災頭巾や避難用シーツを準備している。		ホーム独自の夜間を想定した避難訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを損ねるような言葉かけは、しないようにしている。入居者の名前の書いてあるファイル等は、きちんと管理している。	利用者の目線に自分の顔を置き、声のトーンにも気をつけて言葉かけをしている。標準語で話しかけたほうが良い利用者と、方言を交えたほうが良い利用者とを判別している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持を考慮して、声かけしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに沿って、過ごしてもらっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体施設の栄養士の作成した献立があり、それを利用している。時には食材の差し入れがあり、献立以外のものを作り、食べてもらっている。入居者には、準備の手伝いはしてもらっていないが、下膳はしてもらっている。	利用者と職員が、一緒にテーブルについて食事をしている。職員と利用者、利用者同士の会話があり、和やかで笑いのある食事になっている。食事に出すための梅干作りも、利用者と職員で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往歴を把握し、水分が不足しないように対応している。食事摂取量や水分摂取量も記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声かけをし、できる方は自分でしてもらい、出来ない方は介助している。			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンがあるので、個別に行っている。		自立している利用者、声かけが必要な利用者、付き添うだけで良い利用者と、それぞれの状態に応じた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	母体施設の栄養士の作成した献立で、バランスのよい食事を提供している。水分補給を充分行い、排便チェック表を活用し、緩下剤を利用したりして、コントロールしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックし、本人の意思に沿って可否を決めている。一人ひとり湯を張り替えて、ゆっくり入ってもらっている。		一人が30分ほどかけてのゆっくりした入浴時間が設けられている。毎日入浴できるようになっているので、利用者の状態に応じて、いつでも対応できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休みたい方には、休んでもらっている。自室でマイペースに過ごされている方もおられる。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病歴を把握し、薬の活用を明示している。拒薬や錠剤が飲めない方は、つぶして容器に入れて、黒砂糖を混ぜて、とろみをつけて服用してもらっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事はしてもらっている(食事の片付け・洗濯物たたみ等)。花の好きな方に対しては、居室に花を飾ったり、園庭に花を植えて楽しんでもらっている。季節の行事(梅ちぎり・梅漬け・干し大根・漬物等)の場面作りをしている。日記を書いたり、化粧品を使用する方もおられる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	母体施設の園庭散歩や花見など、季節に応じて出かけている。家族の協力がある所は、いつでも出かけられるよう支援している。		ホームを含む同法人の敷地が広いので、それを利用した散歩がなされている。花の季節に応じて、名所に出かけている。また、家族の希望で、出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、買い物ができる入居者は、スタッフと一緒に買い物をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、受けたり、いつでも出来るようにしてある。孫からのはがきを楽しみに待っている入居者の方もおられる。妹に手紙を出される方もおられる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには、いつも花を飾っている。花だけでなく、季節に応じたものを飾ったり、ソファや食堂テーブル等は、常に入居者が過ごしやすいように考えている。		天窓からも柔らかい光が入るようになっており、間接照明も用いられている。「室内除菌・消臭加湿器」が設置され、定期的に作動している。花の咲く中庭に向けてソファが置かれ、テーブルにも季節の花が飾られている。七夕飾りが季節感を醸し出している。大きな日めくりカレンダーがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり、安心できる居場所がある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇・テレビ・ラジカセなど、それぞれ自由においてもらっている。仏壇には、本人が毎日ご飯を供えられている。		自分の家の部屋をそのまま持ってきたように、なじみの物が置かれている部屋や、利用者の状況に応じて、家族と話し合い、物を置かないシンプルな部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを利用し、自由に移動してもらっている。廊下には、休憩できるよう、ソファを置いている。			